

令和8年度「国語セミナー」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
国語セミナー		選択	GC科・文系2	共通
教科書 副教材等	探究 論理国語（桐原出版） 現代文アシスト（啓隆舎）			

1 学習目標

国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。それとともに、近・現代の文学や価値観に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や文学作品や登場人物に対する「同化」や「異化（客観的な分析）」を通して、深く共感したり、豊かに想像し自分の思いや考えを広げ、深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習概要

文化としての日本語、また、日本語を実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な生活、さらに、近・現代に発表された文学作品に表現され、受容されてきた日本語の芸術や芸能などを学んでいきます。近・現代の小説・詩・短歌俳句等の文学や、古典の作品にも触れながら、総合的に国語を学ぶことになります。

3 学習方法

(1) 授業への取組

授業は、教材について読み考え記述し、そして発表する場です。教師が板書することをノートに書き写すだけでは意味がありません。生徒の皆さん一人一人が積極的に授業に参加することが期待されています。

(2) 家庭学習

授業で扱う教材については事前に通読し、読めない漢字や意味の分からない語句については辞書で調べておきましょう。事前に通読・意味調べ等をするのとならないのでは、理解に大きな差が生まれます。また、語彙力と読解力を強化するためには、日常的に活字に触れることが大切です。画像や動画といった視覚刺激に慣れすぎると、思考や発想が鈍くなります。ぜひ日々の読書を日課としてください。

4 評価について

(1) 評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査（中間・期末考査、学力テスト）……………①、②
- ・小テスト……………①、②
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………②、③

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

	知識・技能（①）	思考・判断・表現（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価規準	生涯にわたる現実社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使用しようとしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高め、思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめごと）	考查等
一 学 期	【文化の認識】 ・「文化が違う」とは何を意味するのか？（岡真理） ・学問の政治性（隠岐さや香）	・「結論」がどこにあるかを見抜き、文章全体の論理構造をつかむ力を付ける。 ・「多文化主義」「覇権主義」とは、それぞれどのようなものか理解する。 ・段落の役割を考え、要約文をつくる。	学力テスト①
	【社会の枠組み】 ・人はなぜ働かなくてはならないのか（小浜逸郎）	・「前提・根拠・結論」の論理展開の構造を読み解く。 ・「話題」に対する筆者の「結論」をとらえ、要約文をつくって「書く」力を身に付ける。 ・「無意識のバイアス」の具体例を挙げ、それらについてどのように向き合うべきか論述する。	中間考查
	・アリストテレスの哲学（中畑正志） ・五來重（日本人の死生観）	・抽象的な思考の道筋をたどるうえで、言い換え表現を手がかりにすることや、段落どうしの因果関係を的確に把握することの必要性を学ぶ。 ・筆者の「労働」についての主張に対して、自分の意見をもつ。「社会的な存在」である人間や、労働の意義について考える。	期末考查
	・ナポリを見て死ね（須賀敦子） ・谷崎潤一郎（芸談）	・様々な評論文を読み、対比される概念や論理展開の構造を見抜く。問題に対して正確に答える訓練を通して、自分の考えを深め、筋道を立てて自分の意見を表現する力を付ける。 ・筆者の主観的につづられた文章である随筆の表現や論理について学び、読解方法を習得する。	
二 学 期	【情報と知性】 ・メディアのテロル（山田登世子） 【環境と人間】 ・エコロジーのミューズを求めて（今福龍太） ・善悪は実在するか（河野哲也） ・林檎に関する一考察（花田清輝） ・子供の領分（吉行淳之介）	・繰り返されるキーワードを抜き出し、要約文をつくる。 ・言葉の定義、使い分けの意味について考えを深め。抽象的な語句を具体的に言い換え、演繹する。「帰納」と「演繹」について応用する。 ・「メディアのテロル」を実感した事例を挙げ、メディアについて、利点や欠点を挙げて比較する。 ・「話題」を捉え、筆者の近代科学に対する批判的主張を理解する。 ・現代の「エコロジー」の課題について考え、環境倫理の問題を論じ合う。 ・段落ごとのキーセンテンスを見出しつつ、「前提・根拠・結論」の論理展開を読み取る。 ・様々な評論文を読み、対比される概念や論理展開の構造を見抜く。問題に対して正確に答える訓練を通して、自分の考えを深め、筋道を立てて自分の意見を表現する力を付ける。 ・登場人物の性格や行動の描写から、人物の心情を読み取り、小説読解の方法について学ぶ。	学力テスト② 中間考查 期末考查

三 学 期	・顔の所有（鷲田清一） ・アメリカ現代思想の教室（岡本裕一朗）	・「前提・根拠・結論」の論理展開の構造を自らとらえ、論理構造について説明する力を身に付ける。 ・様々な評論文を読み、対比される概念や論理展開の構造を見抜く。問題に対して正確に答える訓練を通して、自分の考えを深め、筋道を立てて自分の意見を表現する力を付ける。	学年末考査
-------------	--	---	-------